

I 野菜の概況

1 野菜の需給動向

野菜の1人1年当たりの消費量（供給純食料）は近年減少傾向で推移し、平成19年度（概算）は93.9kgと、平成18年度の94.9kgと比べ、1.0kg減少した。

これに対し、野菜の生産量は、平成18年度は1,236万トンであったが、平成19年度（概算）は1,242万トンと6万トン増加した。

また、野菜の輸入量は、平成19年度の野菜の輸入量は299万トン（生鮮換算ベース）で、前年比92.2%と大幅に減少した。

この結果、平成19年度（概算）の野菜の自給率は、国内生産量はほぼ前年と変わらないが、輸入量の減少により、前年度から2ポイント上昇して81%となった。

表1 野菜の需給動向

(1) 平成19年度（概算値）

人口127,771千人（平成19年10月1日現在）

（単位：断りなき限り1,000トン）

類別・品目別	国内		外国貿易		在庫の増減量	国内消費仕向量	国内消費仕向量の内訳				
	生産量	輸入量	輸出量	飼料用加工用種子用			減耗量	粗食料		純食料	供給数量
								総数	1人1年当たり		
野菜	12,420	2,992	13	0	15,395	0	1,558	13,837	108.3	11,992	93.9
a. 緑黄色野菜	2,740	1,406	4	0	4,141	0	391	3,750	29.3	3,472	27.2
b. その他の野菜	9,680	1,586	9	0	11,254	0	1,167	10,087	78.9	8,520	66.7
野菜	12,420	2,992	13	0	15,395	0	1,558	13,837	108.3	11,992	93.9
1. 果菜類	3,485	1,455	2	0	4,936	0	485	4,451	34.8	3,699	29.0
うち果実的野菜	829	64	0	0	893	0	107	786	6.2	531	4.2
2. 葉茎菜類	5,877	839	5	0	6,711	0	833	5,878	46.0	5,148	40.3
3. 根菜類	3,058	698	6	0	3,748	0	240	3,508	27.5	3,145	24.6

資料：農林水産省「食料需給表」

(2) 平成18年度（確定値）

人口127,770千人（平成18年10月1日現在）

（単位：断りなき限り1,000トン）

類別・品目別	国内		外国貿易		在庫の増減量	国内消費仕向量	国内消費仕向量の内訳				
	生産量	輸入量	輸出量	飼料用加工用種子用			減耗量	粗食料		純食料	供給数量
								総数	1人1年当たり		
野菜	12,356	3,244	9	0	15,593	0	1,586	14,007	109.6	12,119	94.9
a. 緑黄色野菜	2,665	1,415	2	0	4,078	0	389	3,689	28.9	3,408	26.7
b. その他の野菜	9,691	1,829	7	0	11,515	0	1,197	10,318	80.8	8,711	68.2
野菜	12,356	3,244	9	0	15,593	0	1,586	14,007	109.6	12,119	94.9
1. 果菜類	3,403	1,492	2	0	4,894	0	483	4,411	34.5	3,659	28.6
うち果実的野菜	827	69	0	0	896	0	108	788	6.2	534	4.2
2. 葉茎菜類	5,893	1,006	0	0	6,900	0	861	6,039	47.3	5,276	41.3
3. 根菜類	3,060	746	7	0	3,799	0	242	3,557	27.8	3,184	24.9

資料：農林水産省「食料需給表」

(3) 食料自給率

（単位：%）

	昭和40年度	50	60	平成7年度	13	14	15	16	17	18	19（概算）
供給熱量ベースの総合食料	73	54	53	43	40	40	40	40	40	39	40
野菜	100	99	95	85	82	83	82	80	79	79	81

資料：農林水産省「食料需給表」

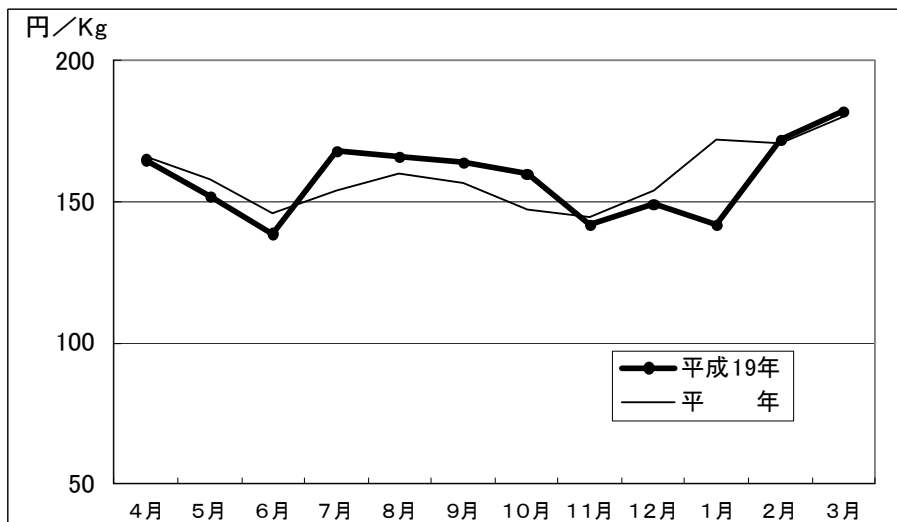
2 野菜の価格動向

平成19年産の春野菜は、全体的に気温も高く好天に恵まれたため、入荷量は順調に推移し価格は平年を下回った。

夏秋野菜については、主産地における7月の日照不足、8月以降の高温、干ばつの影響により生育が悪く、葉茎菜類と果菜類を中心に入荷量が平年より少なく、価格は平年を上回った。

秋以降は、夏の高温の影響で特に果菜類の入荷量が少なく平年に比べ価格は高かったが、年明け、葉茎菜類の生育が順調で入荷量が多く、価格は全般的に軟調に推移し、20年2月にはキャベツ、だいこん及びはくさいで緊急需給調整（市場隔離及び産地調整（後送り））が行われた。

図1 指定野菜(14品目)の卸売価格の動向(東京都中央卸売市場)



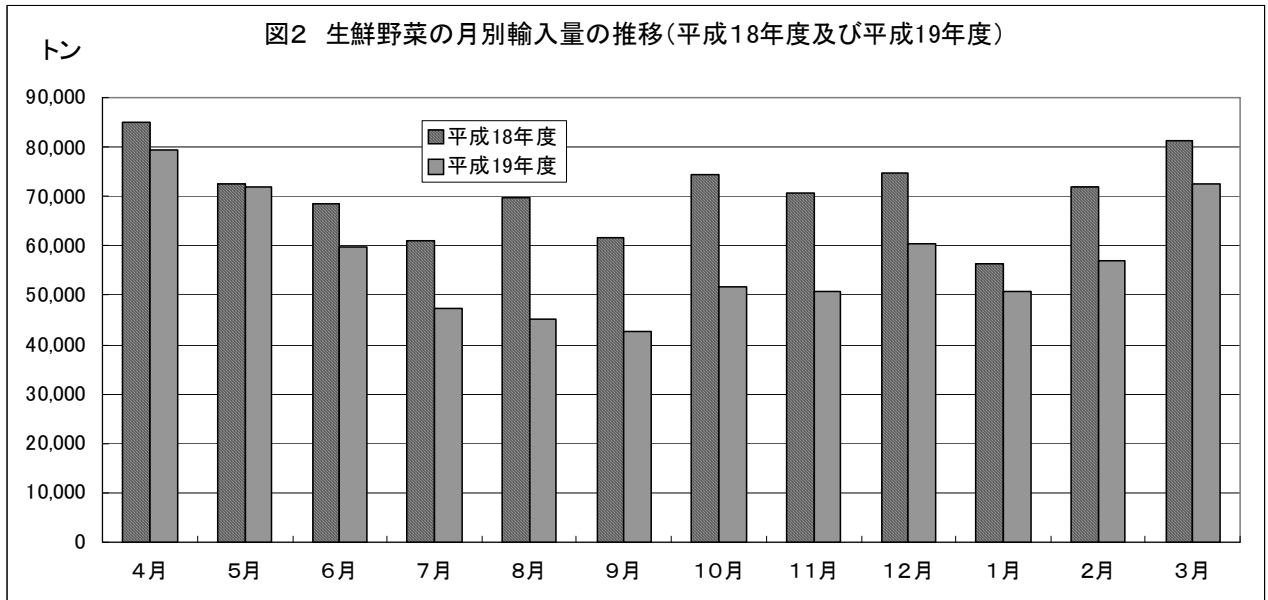
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平成19年	165	152	139	168	166	164	160	142	149	142	172	182
平年	166	158	146	154	160	157	147	145	154	172	171	180

資料：東京青果物情報センター「東京都中央卸売市場における野菜の市場別入荷数量及び価格」

注：平年とは、過去5カ年（平成14年度～18年度）の月別価格の平均値である。

3 野菜の輸入動向

平成19年度の野菜の輸入量は299万トン（生鮮換算ベース）と、中国産野菜に対する消費者の不信感が高まったことによる輸入量の減少により前年比92.2%の減となり、うち、生鮮野菜は、69万トンと前年比81.4%の大幅な減少となった。



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
平成18年度	85,132	72,459	68,537	61,039	69,669	61,489	74,405	70,571	74,720	56,502	72,060	81,370	847,953
平成19年度	79,465	71,857	59,943	47,395	45,195	42,761	51,597	50,893	60,430	50,912	56,989	72,560	689,997
対前年比													81.4%

資料：財務省「貿易統計」